

「神様からいただいた休息」

木内 奈緒子

グアム派遣柏市青少年プログラムの第14回生の引率者として、同じ引率者である湯浅さんと8人の柏市の中学生と共に素晴らしい6日間を過ごすことができました。

6回に渡るオリエンテーションでは英会話の練習と St. Francis School でのパフォーマンスの練習をしました。二人羽織や習字やさくらの歌、そして長縄などリーダーの優ちゃんを中心とした緻密な計画が立てられました。優ちゃんの作ったプログラムは大事にしますね！

2日目の午後2時間目に発表となり、午後の1時間目を体育館で練習できる許可をもらい LUCKY！さっそく長縄の練習に取り掛かりました。八の字など軽やかに跳んでいる姿を見て、「これならいける！」と確信しました。

そして本番！全校生徒がやってきました。ハラハラしながらもみんなそつなくパフォーマンスをこなしました。英語のセリフは声が少々小さかったですが、演技力？！でカバーし笑いをとるところはみんな笑ってくれていたのだから“成功”だったと思います。長縄は日本人の見事な跳び方に「WOW！」の連続でした。日本人が少しお手本を見せたら、今度はグアムの子供たちの出番です。最初は4、5人の挑戦者でしたが、気が付いたら1年生まで並んで長蛇の列になりました！近い将来 St. Francis School にも長縄大会が開催されることを願っています。

私は修道院(convent)に宿泊しました。St. Francis School の Sister Marsha 校長先生が主に私のお世話をしてくれました。ドアを開けた瞬間「これは夢ではないかしら？」と疑うくらい真っ白で清潔なお部屋でした。自宅の6畳部屋の4倍くらいはあるお部屋を使い、お姫様になった気分でした。神様に与えられた休息だと思ってくつろぎました。そこでお世話をしてくれた Sister Lou, Sister Clare, Sister Maggie にも感謝しきれません。どんなに住まいが良くてもその人たちのぬくもりなしでは快適な生活はなかったのです。シスター(修道女)たちは毎日4時半に起き、世界の恒久平和のために毎日祈りを捧げているのです。私はとにかく一人や二人のために役に立ったと喜ぶ程度ですが、シスター達の祈る背中を見てこれこそ人間としてステキな生き方だと思いました。またシスターたちは食前に必ずお祈りをし、目の前にある食に感謝していただきます。食事中も無言です。日本人が忘れていた何かを当然のようにやっているのです。私も今後は「いただきます」と「静かな食事」を実践しようと思います。

私は都内に勤務しているため自分の市内の生徒とは全く無縁だったのがこのプログラムで知り合うことになり、今や彼らは私の良き後輩でもあります。自分の故郷でもある柏が大好きでこのたび KIRA の活動を通して少し愛“市”精神が芽生えてきたのが良かったです。

最後に KIRA のみなさん、8人の子供たちそして湯浅さん本当にありがとうございました！

柏市のかわいい8人の後輩と湯浅先輩

